



年頭のご挨拶

りんご並木よ、永遠に

飯田市長 佐藤 健



新年あけましておめでとうございます。
謹んで新春のお慶びを申し上げます。

🍏「僕が子どもの頃は、田んぼでスケートしてたんだよ。」

そんな話をすると、子ども達は「えーっ！」と驚きの声を挙げます。

そう、ほんの40年前までは、この長野県の南の端っこにある飯田市でも、田んぼでスケートができていたのに、いつの間にかできなくなってしまいました。

これが地球温暖化の影響だとすれば、このスピードで進むと今世紀の終わりあたりには、「昔は、飯田でもりんごを作っていたらしいよ」などという笑えない会話が現実になってしまうかもしれません（飯田下伊那は、現時点で、りんご栽培の南限です）。

それは、何としても阻止しなくては。

いや、飯田市でりんごが作れなくなっては困るという話ではなく、地球全体の話として。

🍏飯田市では、2021年3月に「2050年いいだゼロカーボンシティ宣言」を飯田市長（行政代表）、飯田商工会議所会頭（事業者代表）及び飯田市議会議長（市民代表）の三者で行いました [写真]。市長だけで宣言するのではなく、事業者代表、市民代表と一緒に宣言したのが飯田市らしいところだと思っています。

この宣言を具現化するための取組をいくつかご紹介します。

🍏宣言の翌年2022年6月に、飯田市・長野県南信州地域振興局・飯田信用金庫の三者で、市民参加型の組織「環境文化都市づくりプラットフォーム（愛称：うごくる）」を設立しました。ここでは、飯田市が目指す都市像「環境文化都市」の実現に向けて、子供から大人まで、また、学生から企業

まで、多くの市民の具体的な行動変容を生み出すため、脱炭素やSDGsに取り組む人の「学び」、「対話」、「行動」を支える取組を展開しています。

翌2023年度からは、学びの機会として「うごくるゼミナール」、対話の機会として「うごくる〜む。」を定期的に開催してきました。

2024年は、市民の学びや対話をさらに大きく育み、具体的な行動につながるよう取組を深化させていく年にしたいと思います。

🍏2022年11月には、環境省から「脱炭素先行地域」に選定されました。現在、対象地域の市内・川路地区にある「メガソーラーいいだ（中部電力設置）」を主要電源施設とする「地域マイクログリッド」の構築を進めており、さらに、地域脱炭素化を推進するための再生可能エネルギーの最大限の導入や、近い将来脱炭素社会をけん引する

児童生徒の育成に向けた環境教育の推進を市内全小中学校と連携して進めています。

🍏現在、2024年度予算の編成作業中ですが、飯田市では、**2024年度を「2050年ゼロカーボンシティ宣言への取組を加速化する年」と位置づけ**、あらゆる部門において脱炭素化を念頭に事業を組み立て、各事業におけるCO₂排出削減効果を明確にすることにしています。

地球温暖化を防ぐ脱炭素の取組は、私たち世代の将来世代に対する責任です。

飯田市のシンボルりんご並木がなくなるなどという悲しい未来を招くことがないように、皆で力を合わせて地球温暖化を食い止めましょう！

本年が皆様にとって佳き年となりますよう、そして、皆様の脱炭素の取組が大きく前進する年となりますようお祈りして、新年のご挨拶いたします。



南信州環境メッセ2023

10月28日(土)・29日(日)、飯田市のエス・バードにて「南信州環境メッセ2023—ゼロカーボン活動推進見本市—」が開催され、当協会は「ゼロカーボン講座」として以下のとおり実施しました。

展示・体験コーナー

10/28(土)13:00~16:00 29(日)10:00~12:00

- 左●小型デジタル地球儀「スフィア」映し出される様々な地球の姿に興味津々。
- 中●牛乳パックで射的「デコ活」アクションを紹介する“的”を狙って輪ゴムを発射!
- 右●輪投げ 再配達削減になる行動が書かれたペットボトルをめがけて、古新聞紙製の輪を「それっ！」



うんこ先生出前授業

10/28(土)13:30~/14:15~/15:00~(各15分)

- 左●『うんこドリル 地球温暖化 長野県編』からうんこ先生が出題すると、みんな元気よく「はい！」
- 中●14:15の回には長野県PRキャラクター「アルクマ」がサプライズで登場!
- 右●公開されたばかりのゲームをタッチパネルで体験。*写真は10/21(土)「くらしふと週末 OPEN DAY」の様子
ゲームで高得点をとると、うんこ先生とアルクマのコラボ壁紙をゲットできます。



工作教室

10/29(日)10:00~12:00
電気自動車付きソーラーハウスづくり

- 左・中●講師は長野県地球温暖化防止活動推進員の湯澤真理子さん。
屋根に載せた太陽光パネルで室内灯(LEDランプ)が光る
- 右●太陽光から蓄電した電気で走る“電気自動車”レースも!
火力発電の仕組みの実演、ポータブル蓄電池の紹介もあり、再生可能エネルギーを親子で身近に感じられる講座でした。





梨と柿と地球温暖化



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。
恒例となりました県農業関係試験場取材レポート第5弾は、
高森町の南信農業試験場をお訪ねしてお話を伺いました。



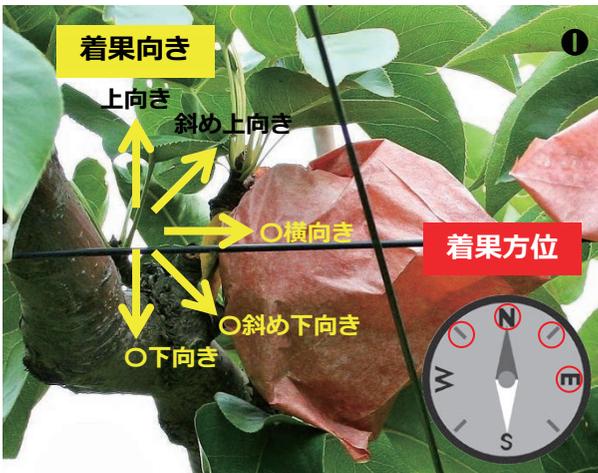
長野県は「日本なし」生産量 5 位

温暖化で梨はどうか？

気温の上昇で、長野県では栽培に適する地域が広がると予想されますが、一方で、日焼けや果実の軟化、凍霜害など既に影響が出ています。

日焼け (南水に多い)

果実表面の一部が赤っぽく変色、果肉が硬くなるなどの障害が全国的に問題になっています。日焼け果の発生を抑えるには、果実に当たる直射日光をできるだけ少なくすることが重要です。調査した結果、南信農業試験場(以下、南信農試)では、枝に対する実のつき方(着果向きや方位)が日焼けの発生に関係し、北西・北・北東・東の方位で、着果向きが横～下向きの果実で少なく、また、枝や葉に 5 割程度以上覆われている果実では発生が少ないことを検証していました [1]。



みつ症(果肉障害の一種) (豊水・南水に多い)

果肉組織の障害により、果肉が透けて茶色くなり、風味が悪くなります [2]。熟れ過ぎた実で多く発生するため、南信農試では熟度調査の結果を週 1 回発表し、適正な時期に収穫できるよう、情報提供しています。



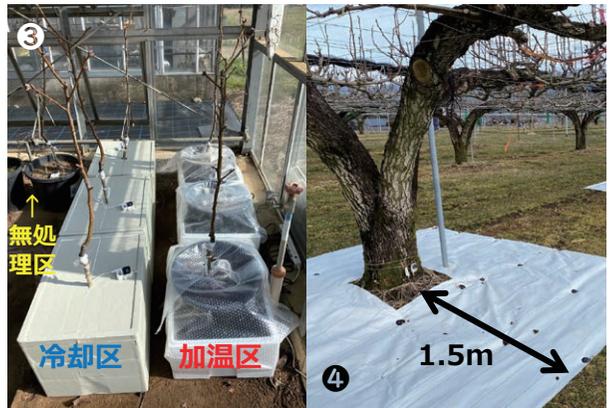
凍霜害

温暖化の影響で 2~3 月の気温が高くなり、発芽~開花期が早まると、開花した状態で 4 月に低温に遭い、甚大な凍霜害が起きてしまいます。

現在、生産現場では、燃烧法や防霜ファンによる送風法などの対策を行っていますが、労力・コスト面から、新たな対策技術が求められています。

南信農試では、春先の地温の上昇を抑えることで、果樹の生育を遅らせ、凍霜害に遭遇するリスクを低減させる方法を検討しています。本年度はポットに植えた南水の土壌の温度を変えて管理し、発芽や開花など生育が変わるかを調査しています [3]。また、圃場のなし樹に対し、地表面を資材(シート)で覆い、地温の上昇を抑えることができるかを調査しています [4]。

これまでの結果では、地温を制御するだけでは生育を遅らせることが難しいことが明らかになっており、今後は樹体温度を抑えるなどの方法も組み合わせて、効果を検証するとのことでした。



環境にやさしい技術

白紋羽病温水治療法

「白紋羽病」は、菌が果樹の根に寄生すると、やがて枯死してしまう土壌病害です。従来の農業に代わり、南信農試では 50℃の温水を根域に点滴して土中の菌を消滅させる、環境にやさしい防除技術を開発しました [5]。現在は温水治療法と新たな防除法を研究しています。☞次頁へ



防蟻照明 [6⑦]

成虫が果汁を吸う吸蟻類、幼虫が食害するシンクイムシ類など夜行性害虫の対策として、農薬を使わずに光を利用した防除法を検討しています。夜間に黄色LEDを点灯し、虫に昼夜を勘違いさせ、行動しないようにし、被害を抑える方法です。



新品種誕生！
「天空のしずく」 [8]

南信農試は、なしの重要病害である「黒星病」(幸水・豊水はかかりやすい)「黒斑病」(南水・二十世紀はかかりやすい)に強く、高糖度で酸味もあり、ジューシーな大玉の新品種を開発しました。

2025 年頃～本格的に出荷予定。乞うご期待！



長野県は干し柿生産量日本一！



干し柿に加工する「市田柿」は下伊那地域で栽培され、長野県の柿の生産量の約9割を占めています。

温暖化で柿はどうなる？

柿も温暖化の影響で生育が早まっており、発芽期の低温による凍霜害や、着色～収穫期の高温による着色不良・着色遅延などの影響がみられ始めています。

ドローンによる省力防除＝スマート農業

市田柿は、他の果樹に比べ防除対象となる病虫害の種類が少ないこと、皮をむいて加工するため生食用ほど高い外観品質を求められないこと、樹高が低い仕立てが増えたことから、病虫害防除でのドローンの利用が期待されています。

南信農試でもドローンの飛行条件や散布薬液の樹体への付着状況などの調査を進めています [9]。



不思議！木がしなってる？「ジョイント栽培」



接ぎ木で複数の木を連結して直線状に。早くから収穫できる、作業しやすくなる、「带状局所施肥法」で肥料も少なく済む、注目の栽培方法だそう。

南信農業試験場

標高 560m
圃場面積 5.3ha



*⑥⑩⑪以外の写真は南信農業試験場からご提供いただきました。

明日へつなぐ出会いと発想

産業フェア in 信州 2023

長野市センターは、「スマートハウス化応援隊」と「デジタル地球儀スフィアⅡ」を中心に出席しました。応援隊協力事業者のシャープとLIXILが脱炭素型ライフスタイルをPRし、推進員の方々も資料を来場者に配りながら温暖化、特に「デコ活」について説明しました。直径60cmのスフィアⅡは初お披露目！北極の海水面積が減少する様子、温暖化を予測したシミュレーション等、様々なコンテンツを迫力ある大きな地球儀に映してご覧いただきました。

会場はたくさんの方で賑わい、来場者数は2日あわせて12,856人でした。

10月27日(金)・28日(土)に長野市のビッグハットで「産業フェア in 信州」が開催されました。地域最大級の多業種総合展示会で、149事業所の出展があり、地域企業それぞれが持つ商品やサービスを広く紹介していました。



【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2024年1月1日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

